

# にちぎん

2022 NO.69

春



インタビュー 扉を開く

**さかなクン** 東京海洋大学名誉博士・客員准教授  
お魚が好きで良かった

地域の底力

**熊本県阿蘇郡南小国町**  
美しい里山を舞台にあらたな挑戦が広がる熊本県南小国町

対談 守・破・創

**野矢茂樹** 立正大学文学部哲学科教授・東京大学名誉教授

**黒田東彦** 日本銀行総裁

デジタル化の中で立ち止まり問い直す哲学の姿勢に学ぶ

エッセイ “おかね”を語る

**久住昌之** 漫画家・ミュージシャン あなたはお札をどれだけ覚えていますか

ボクは一九歳の時、神田にある美学校という小さな私塾みたいな学校に週一回通っていた。先生は赤瀬川原平さん。その後に尾辻克彦の名前で小説を書いて芥川賞を獲ったり、『老人力』というベストセラーを出したりしたけど、その時はまだ「知る人ぞ知る」という現代芸術家であり、イラストレーターだった。

赤瀬川さんの授業で、ある日、A4のコピー用紙が配られた。そしてそこに、鉛筆で千円札を実物大で描くように、と言われた。記憶だけで。

二〇人ほどの生徒は全員、「え……」と言って絶句してしまった。

誰もが毎日のように見て、使っている千円札。それが、描こうとしたら、ちっとも思い出せない。そんなことがあるのか。

とりあえずみんな、紙に長方形を描いた。だが、大きさが、人によってかなり違う。

それから、四隅に「1000」と書いた。対角線上に二箇所だけ書いた人もいる。さらにトランプのように、その「1000」を一つ逆さまに書いた人もいる。

当時の千円札の肖像は伊藤博文だった。だけど、聖徳太子を描いた人もいた。その時点で一〇年くらい前の千円札だ。なにや



絵・江口修平

## あなたはお札を どれだけ覚えていますか

久住昌之

ら軍服を着て、帽子をかぶり、長い真っ黒な顎ヒゲを生やした人物を描いた人を見た時は、吹き出しそうになった。誰だ、それは？

真ん中にどでかく「千圓」と書いて、その先は手がピタリと止まってる人もいた。

かくいうボクも、伊藤博文、というところまでは思い出せたが、顔は真っ白、ただ、鼻の横にホクロがあったような気がして、鼻とホクロだけ描いた。あと、なんかアルファベットの混じった長い数字も書いた。丸いハンコのようなものがあつた気がする。あ、透かしがあつたな。

制限時間が終わり、各々、自分の財布から千円札を出した時は教室に「あー！」と声が上がリ、次に笑いがさざ波のように起こつた。そうだったこうだった。見ればちゃんと覚えているのだ。当たり前だ。じゃなきゃ、貨幣社会は成り立たない。

ボクらはいったい、お金のどこを見ているんだろう？ 記憶ってなんだろう？ いや、お金ってなんだろう？ この授業はボクらに根本的な疑問を問いかけてきたのだった。

皆さんも試してみてはいかが？ 今すぐ。

くすみ・まさゆき●漫画家・ミュージシャン。1958年東京都生まれ。法政大学社会学部卒。99年、実弟・久住卓也氏と組んだ漫画ユニット「Q.B.B.」名義で書いた『中学生日記』で、第45回文藝春秋漫画賞受賞。97年、谷ロジロー氏と組んで書いた漫画『孤独のグルメ』は、現在イタリア他計10カ国で翻訳出版されている。2012年にTVドラマ化され、現在Season9。劇中全ての音楽の制作演奏をし、脚本を監修、最後にレポーターとしても出演。19年、絵本『大根はエライ』（福音館書店）が第24回日本絵本賞を受賞。





- 2 エッセイ／“おかね”を語る  
**あなたはお札をどれだけ覚えていますか** 漫画家・ミュージシャン 久住昌之
- 4 インタビュー／扉を開く  
**さかなクン** 東京海洋大学名誉博士・客員准教授  
 お魚が好きで良かった
- 9 地域の底力——熊本県阿蘇郡南小国町  
**美しい里山を舞台に**  
**あらたな挑戦が広がる熊本県南小国町**
- 17 対談／守・破・創  
**野矢茂樹** 立正大学文学部哲学科教授・東京大学名誉教授  
**黒田東彦** 日本銀行総裁  
 デジタル化の中で立ち止まり問い直す哲学の姿勢に学ぶ
- 22 FOCUS → BOJ ③⑨ 日本銀行の気候変動に関する取り組み  
**総力戦で世界が直面する課題に挑む日本銀行の気候連携ハブ**  
 日本銀行のレポートから
- 28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2022年1月—
- 30 「地域経済報告」(さくらレポート) —2022年1月—
- 31 トピックス  
 一万円札の肖像交代を前に福澤諭吉ゆかりの地で  
 冬休み特別展示イベントを開催 ほか
- 35 AIR MAIL from London  
**ロンドンにおける交通手段の「エコ化」**

※取材は感染対策を徹底して実施しています。  
 本誌は3月2日(水)までの情報をもとに掲載しています。

表紙の店舗は、日本銀行名古屋支店の四代目店舗で、昭和二十四年（一九四九）に現在の桜通伏見の角地（当時の菅原町一丁目一番地）に建築されました。終戦後の物資不足の中、急ごしらえの木造建築だったため、歩けば床がきしむ状態だったと記録されています。一方で、金庫だけは中央銀行の生命線であるとして、政府の特別許可を得て、鉄筋コンクリートで造られました。当時、名古屋市の人口は一〇〇万人を超え、東京都区部・大阪市に次ぐ規模でした。このような戦後復興の中で、厳しい状況にあった自動車産業へ、融資あっせんなどの対応策を講じることもありました。また、昭和三十四年（一九五九）九月の伊勢湾台風襲来時には、約七五万枚の損傷銀行券・貨幣が支店に持ち込まれたほか、現金供給の交通網が一部遮断されたため、大阪支店からの応援も受けながら対応に当たりました。その後、建て替えに伴う一時移転を経て六代目店舗として営業する現在の名古屋支店は、本年三月で開設一二五周年を迎えます。今後も、東海地域の経済を見守り続けていきます。

表紙のことば



表紙・画 北村公司



東京海洋大学名誉博士・客員准教授

# さかなクン

Sakanakun

ハコフグの帽子と白衣の姿から繰り出す「ギョギョッ」などの  
明るいパフォーマンスでおなじみのさかなクン。魚に関するテレビ  
番組やイベントで引っ張りだこの一方で、絶滅したと思われる  
クニマスの生息発見に貢献するなど、その活動や知見は学術界から  
も一目置かれている。誰からも親しまれるユニークなキャラクター  
と豊富な知識はどのように培われたのか。魚が好きになった少年時  
代から現在に至るまでを、話題豊富に語っていただいた。

# お魚が好きで良かった

## 友達のタコの絵が「魚」の世界を開いた

——魚好きで知られますが、どのようなお子さんだったのでしょうか。魚を好きになったきっかけから教えてください。

出して、タコちゃんを探し当てました。

さかなクン はい！ きっかきは、小学二年生のときです。友達が何かを一生懸命に描いていたので、「何を描いているの?」

ただ、自分が食べてきたタコちゃんと図鑑の写真が結びつきませんでした。

と言ってみると、すきょく生命力に富んだ生き物（タコちゃん）の絵だったんです。見た瞬間に「これはすきょい！ この生き物をもっと知りたい!」と思いました。何の生き物か分からなかったので、放課後すぐに図書室に行き、いろいろな図鑑を引っ張り

「本物を見たい!」と居ても立ってもいられなくなり、母にねだってスーパーさんの鮮魚コーナーに連れて行ってもらい、小さなコップイイダコちゃんを見つけてきました。家族分を買ってもらったのですが、うれしくてうれしくて。いつまでも眺めて、絵を描き、吸盤を教えたりしました。それから一カ月くらいは毎日

タコちゃんを買ってきてもらったのですが、そのうちに、タコちゃんの生きている姿が見たくなり、週末になると水族館さんに出掛けるようになりました。

そのようにタコちゃんを通して海の生き物と触れているうちに、「お魚もいろいろいて面白いな月」と思うようになりました。

小学生の卒業文集には「将来は東京水産大学(現・東京海洋大学)に入ってお魚の研究をし、みんなに知らせたい」と書いていました。

——中学生のときには、カブトガニの人工ふ化に成功したそうですね。

さかなクン はい。中学三年生の頃、学校にカブトガニちゃんが来たんです。それを理科室で

飼うようになりました。

理科室は自分が所属していた吹奏楽部——「水槽学部」と早とちりして入部したのですが——の練習場所にもなっていて、練習の合間はカブトガニちゃんを水槽から出して散歩させ、それ以外のときは水槽に入れる、という毎日でした。

後で考えると、それがカブトガニちゃんに潮の満ち引きを思わせたようで、数カ月後に黄色いトウモロコシの粒のような卵を産んでくれたのです。

それを先生と友達と分けて、それぞれの家で飼育を始めたところ、しばらくしてわが家で次々と卵がふ化しました。感激してすぐに顧問の先生に電話をしたのですが、「それは良かったね」

カブトガニを観察する、学生時代のさかなクン（前列中央）



©2022 ANAN AND Tm.

の言葉に続けて言われたのが「ところで、今何時か知っている？」。慌てて時計を見たら、夜中の三時で、うわー、大惨事（三時）だーっ、と。時間を忘れて夢中になっていました。

でも、そのようにカブトガニちゃんの水槽内で産卵し、さらにふ化するというのはとても珍しいことで、当時、新聞でも大きく取り上げていただきました。

## クイズ番組からお茶の間の人気者へ

——今のようなお仕事は、どう  
いう経緯で始めたのでしょうか。  
さかなクン 高校三年生のとき

に、当時大人気のクイズ番組の  
「魚通選手権」に出演できたこと  
がとても大きいです！

高校生ということでも詰め襟の学ランを着て銚子（千葉県）の市場まで出掛けたのですが、最初のクイズは、赤身のお刺身がのった丼を完食して、並んでいる実物のお魚の中からどのお魚が使われたかを当てるというものでした。がーっと思って、「おいしい!! これはマグロちゃんだ!! メバチちゃんかな? キハダちゃんかな?」と考えながら、お魚の所に行ったら、目に飛び込んできたのは「いつか本物を見てみたい」と思っていた大きなアカマンボウちゃんでした。夢中でアカマンボウちゃんを持って来て「アカマンボウー」と答えを言ったら、まさかの大正解。思わず、びよびよんジャンプして大喜び戸するとそれを見て、周りの皆さまが、笑ったり拍手してくださったのです。そのときに「こーやって感動を自然に表現していいんだ。本当の気持ちは見ている人にも伝わるんだ。うれしーい」と初めて知りました。そして、それが今の自分に結びついています。

結局そのときは準優勝だったのですが、その後もこのクイズ番組に出る貴重なギョ機会をいただき、五連覇することができました。

——五連覇はすごいですね。でも、それは今のような活動とは別ですよな?

さかなクン はい。当時はお魚に関わるアルバイトなどをしていました。熱帯魚屋さんでは、せっかく出会ったお魚たちが一匹一匹売られていくのを見るのは「ドナドナドーナドーナ」の心境で、とっても切なくて……。

そんなときに、クイズ番組で知り合った寿司職人さんのお店で働かせていただくことになり、「職人には向いてなさそうだから、店の壁に絵を描いてよ!」と画材までそろえてくださり、アカマンボウちゃんやウマヅラハギちゃんなどを描かせていただきました。絵を描くことは小さい頃から好きで、暇さえあれば——いや、暇がなくても、学校の授業中などでも描いていました。

その絵が評判になり、「うちに



も描いて」とお魚屋さんや料理屋さんから声が掛かるようになりました。

そんな日々を過ごしていると、「あなたの生活は面白いですね」と、テレビのドキュメント番組で取り上げてくださいました。それを見て声を掛けてくださったのが、今所属している事務所です。

そうしたギョ縁をきっかけにして、お魚の魅力をギョ紹介するというさかなクンの活動が始まりました。

さかなクン●東京海洋大学名誉博士・客員准教授。魚の情報や正しい知識、おいしい食べ方、環境問題などをテーマに講演・啓発活動を全国各地やメディアで続けている。外務省「海とさかなの親善大使」、環境省「プラゴミゼロアンバサダー」、文部科学省「日本ユネスコ国内委員会広報大使」、農林水産省「お魚大使」など多数歴任。2010年、絶滅したと思われていたクニマスの生息確認に貢献。海洋に関する普及・啓発活動の功績が認められ、海洋立国推進功労者内閣総理大臣賞を受賞。NHK テレビ「ニュースシブ5時」の「さかなクンのギョギョ魚ななかまたち」コーナーを担当するなど、多数のメディアに出演のほか、YouTube「さかなクンちゃんねる」では独自の動画も公開している。『朝日小学生新聞』の「おしえてさかなクン」コラムを連載。主な著書に『さかなクンの一魚一会』(講談社)、『ギョギョギョ! おしえて! さかなクン』(朝日学生新聞社)など。

—— 私たちが知るさかなクンの誕生ですね。

さかなクン はい、 ですが、最初は人前で話すのは苦手でした。事務所の社長からも「目が泳いじゃってるよ!」と注意されました。「あのカメラのレンズの向こうで、たくさんの人たちが、お魚の話聞きたいとわくわくしているんだよ」と言葉をいただき、自分の役割に気付くことができました。

そんな時期に出会ったのが、頭ハコフグちゃんです。小さ



著書『一魚一会』にも掲載されているさかなクンによるイラスト

©2022 ANAN 魚 And Tm.



学生向け講演の様子

©2022ANAN And Tm.

な頃、福島県のお魚屋さんの大きな水槽の中で、大きなマダイちゃんやブリちゃんに当たって弾き飛ばされながらも一生懸命泳いでいるハコフグちゃんの方に感動しました。自分もハコフグちゃんのように、何にぶつかってもめげずに元気でいよう！ そんな思いで、頭にハコフグちゃんという、「さかなクン」の姿になりました。

—— そういうまっすぐなお気持ちですが、多くの人を惹きつけるのですね。

さかなクン ギョギョ!! うれしいです。大人になって分かったのですが、「お魚が好き」「お魚をもっと知りたい」という子がいると、自分がお魚について知ってることをたくさん教えてあげたくなります。自分が小さかった頃は、お魚を見てキャッキャ喜んで、お魚の絵ばかり描いていました。すると、お魚屋さんのお兄さんや料理屋の板さん、漁師さんが、たくさんお魚のことを教えてくれました。夢中になれることがあると、つらいときでも支えになったり、それを通して仲間ができたります。

さかなクンの場合は、お魚を通して、たくさんのお魚仲間ができました。また、川や海などの環境問題、海外のことなど、お魚を通して広い世界とつながることができています。お魚が好きで本当に良かったと思います。

以前、寄稿した文章(注)で、「広い海では仲良く群れを成すメジ



さかなクンによるイラスト「広い海へ出てみよう」

©2022ANAN And Tm.

ナちゃんが、狭い水槽に入れると仲間をいじめるようになる」ということをギョ紹介したことがあります。私たちも、広い海を泳ぎ回るお魚のように、元気にレッツ・ギョー!でギョごいますね!!

—— 本日はさかなクンや魚にまつわる大変興味深いお話、本当にありがとうございました。

(注) 寄稿した文章「広い海へ出てみよう」二〇〇六年十二月二日付の朝日新聞の連載「いじめられている君へ」に寄稿されたさかなクンの文章。自身の体験や水槽の中の魚たちのいじめを紹介したもので、「広い空の下、広い海へ出てみましょう」のメッセージが反響を呼んだ。一部加筆・修正のうえ、「広い空 広い海」と改題され、著書「さかなクンの一魚一会」に収録されている。

(聞き手/情報サービス局長 渡邊昌二)



地域の底力

熊本県阿蘇郡南小国町

美しい里山を舞台に  
あらたな挑戦が広がる  
熊本県南小国町

かつて黒川温泉の改革が注目され、  
観光客を集めた熊本県南小国町では、  
今、さらなる挑戦への熱が伝播している。  
人々の自主性を培う取り組みとともに、  
里山で暮らす昔ながらの人の絆が、  
その流れを力強く支えている。

縁結びの滝として知られる南小国町の「夫婦滝」は、熊本県平成の名水百選の一つ。滝が流れ落ちる田の原川は筑後川の源流であり果ては有明海へと至るため、この清流を守ることは下流の環境保全にもつながるという意識が地元根付いている。



## 住む人と役場の 自主性を育むために

大分県に隣接する熊本県東北部の阿蘇郡南小国町は、人口約三九〇〇人の自治体だ。阿蘇外輪山の北に位置する町の主要産業は、温泉が要となる観光業のほか、農業や林業。町域の八割を森林が占めるのどかな景観ゆえ、NPO法人「日本で最も美しい村」連合の加盟地域の一つになっている。

その豊かな自然を守り未来へとつなぐため、二〇一五年から現職を務める高橋周二町長が指針として掲げたのは「上質な里山」だ。

「住民にとってごく当たり前だった町の美しい里山の景色を改めて意識し、受け継いでいこうという思いです。それをかなえるためには、住む人が元気でなければいけません。そこで私が大切だと考えたのは、町の人々が自発的に考え、挑戦するような方向に踏み出してもらうことでした」

住民の背中を押したのは、二〇一八年から始まった起業や事業承継などを支援する「夢チャレンジ推進事業補助金」。

「情熱はあっても何から手をつけなければいいのかわからない、という方々をバックアップする仕組み

下／日本の広さを誇る阿蘇の草原は、冬枯れの状態に火を放つ野焼きにより健やかな環境が維持されてきた。一説によれば、受け継がれた歴史は一〇〇〇年以上とも伝えられている。  
(写真提供：南小国町)  
左／町の東端に位置する「松にきく虹の道」は、かつて参勤交代の道であり、多くの人々が行き交った。



「自分自身が楽しまなければ、役場の職員にも住民にも言葉は響かない。号令をかけるだけではなく、さまざまなチャレンジと一緒に汗をかきながら関わっています」と話す町長の高橋周二氏。

です。ジャンプする前のホップ・ステップを、町が後押しします。その結果、資格を生かして美容院を開きたいなど、小さいながらも数々の挑戦が生まれています」

役場内でも、道は切り拓かれた。「小さい自治体は、将来の方向性が役場の動きにより大きく変わっ

てきます。首長は任期をもって交代しますが、職員はここで長ければ四〇年ほど働く。首長の指示を待つだけではなく、自主的に考えて動くことが大切だと職員に伝えていきます」

コミュニケーションの充実を図るためにまずは朝礼が設けられ、あらたなプロジェクトを立ち上げる際には、課を横断するチームをつくり、議論。先進的な他の自治体への視察も重ねられてきた。

「役場内での横の連携は現在も積極的に進められ、若手職員が役割を担う機会が増えました。職員からの提案も増えつつあり、やりがいがあるという声が聞かれるよ



南小国町役場は窓口から議会が行われる大会議室棟まで、町が誇る小国杉をふんだんに使用。2019年には、NPO木の建築フォーラム主催「第14回木の建築賞」で、「木の建築大賞」を受賞した。大会議室棟は「きよらホール」と名付けられ、イベントにも活用されている。

うになったのがうれしいですね。私は『挑戦の種火』と言っているのですが、役場にしても住民にしろでもその種火の熱が少しずつ伝播<sup>でんぱ</sup>し、挑戦の輪が広がる環境が生まれてきていると思います」

## 民間の視点で 地域づくりを支える SMO南小国の存在

その「挑戦の種火」の熱が広がっていくのを後押ししているのは、二〇一八年設立の「SMO (Satoyama Management (Marketing))



SMO 南小国が運営する南小国町総合物産館「きよらカアサ」では、ジャージー牛の牛乳を原料としたかりんとう他、地元の特産品が並び、土産物を求める観光客が立ち寄る。館内では日替わり弁当の販売もあり、地域の人にとっても頼りになる場所だ。

Organization) 南小国」。町が出資した株式会社で、町長の高橋氏が代表取締役を務める。また、商工会、JA、観光協会、森林組合といった地域の団体も広く関わっている。

そのCOO（最高執行責任者）として実務を進める安部浩二氏は、携わってきたローカルベンチャー事業などを介して南小国町と縁が生まれ、二〇一九年四月に家族とともに東京から移住した。

SMO南小国の取り組みは、実に多角的。現在は、地域商社（物産館・ふるさと納税）、観光振興（南小国町観光協会、ツアーリズム）、情

報発信 観光、商品、人の情報発信）、未来づくり（コワーキングスペース運営、起業・新規事業創出）の四事業部が柱になる。

「SMO南小国の役割は、地域の内外をつなぐハブ機能。移住や起業を含めた『人的な資本』、企業との連携なども含めた『物的な資本』、そして金融資本、これらをいかに最大化していくかがわれわれのミッションです。民間ベールの視点なら、行政の立場ではリスクを取りづらい課題にもチャレンジしやすいですし、縦割りにないがちな役場の動きを面でつないで効率化できるのも強みです」

例えば、周辺自治体のふるさと納税業務に関与するなど、SMO南小国の取り組みは現在、自治体の枠を超えて広がっていると安部浩二氏は話す。

「隣接する小国町や産山村<sup>うぶやま</sup>の業務も担い、広域エリアの文化・経済圏をシームレスにサポートするプログラムの提供にも努めています。南小国町には、そういう活動が許される度量の広さがありますね」

安部浩二氏とともにその事業を牽引<sup>けんいん</sup>するのは、未来づくり事業部長の安部千尋氏だ。東京都内の

「福岡県や大分県にも近い南小国町は昔から交通の要所だったため人の行き来があり、外の人を受け入れやすい土壌や文化があったのではないかと思います」と話す SMO 南小国 COO の安部浩二氏。



右／2019年5月に完成したSMO南小国が運営するコワーキングスペース「未来づくり拠点MOG」は、住民によるイベントが開催されるなどチャレンジの場にもなっている。

下／町内外の人々をつなぎ、あらたな未来を生み出すために町を思う仲間たちと話し合いを重ねる、SMO南小国の安部千尋氏。



公務員や地域振興の仕事を経て、当時、南小国町が開催していた移住関連のイベントに参加した際、南小国町役場の行動力とスピード感に惹かれ、移住を決めたという。「南小国町では、誰かが町をよくしてくれるのではなく、守りた

いものがあるから自分が動くという当事者意識を強く感じます。そのような中で私が担うのは、町の方々がより活躍できる環境をつくること。起業支援や新規事業立ち上げに関するご相談に対応する一方、この町で起業したい人や若い世代を呼び寄せる仕組みを構築し、その双方をつな



ぎながら相乗効果が生まれることを目指しています」

「事業者は人手不足なのに対し、住民は仕事がないと訴える矛盾が生じた現状をふまえ、千尋氏が今、力を注ぐのは人材環流事業だ。

「この状況は、主産業の観光業や農業を含めた町産業において、繁忙期と閑散期の人手の需要が異なることが影響しているのかもしれない。構造的な課題ですが、仕組みで改善できることも。例えば、弊社で取り入れた限定正社員制度は、パートタイムの勤務でも正社員の待遇を受けられ、責任を持った仕事ができます。小さなお子さんがいる社員も含めて働きや



「挑戦することに前向きな方々が、南小国町には多い。足りないものがあれば外の人とも手をつなぎ、柔軟な意識もあるのが魅力的」だと、安部千尋氏は語る。

すいという声が上がっており、この学びを事業として展開できればと思っています」

挑戦という点においては、「コロナ禍という逆境もまたチャンスだった」と安部千尋氏は振り返った。青年海外協力隊や留学などを希望しながらも、コロナ禍のため海外への道を閉ざされた若者向けに、南小国町で働きながら過ごす「ワーキングバケーション」を催行。参加した若者からは「今までは海外にばかり目を向けていたが、日本の地域でこんなに可能性にあふれる場所があるなんて知らなかった」という声がかれたという。

他にもSMO南小国が進めている

る取り組みは多岐にわたり、既存概念にとらわれないSMO南小国の発想と町への熱い思いが、住民の間に広がる種火のエネルギーマットになっていることが実感された。

## 里山の暮らしにふれる インバウンドツアーへの期待

SMO南小国の観光事業部において、インバウンドを担当するのは二〇一八年十月にスウェーデンから移住したワル・マックス氏だ。「移住する前、留学で京都に住んでいた頃から九州が好きでしたし、日本の田舎で暮らしたいという希望はありました。お声掛けがあつて訪れた南小国町では、景色や料理にもまして、優しく情熱的で、生き生きとした人たちに感動しました」

地域とのコミュニケーションを重ねる中、立案したのは地元の人々との交流を重視したインバウンド向けツアー「Satoyama Journey」だ。

「九州に来る海外の方は、既に東京や京都、北海道などの定番観



「参加者にとって人生の次のステップにつながるヒントを与えられるようにと考えてツアーを企画しました」と話すワル・マックス氏。南小国の景色を描いた水彩画からは、町を愛する思いが伝わってくる。



光地を訪問済みで、初めての日本旅行ではない可能性が高い。その分、日本の大ファンで、より深く、文化や暮らしの本質を知りたいはず。そう考え、野菜の収穫や調理して食べる体験によって、農家の人たちと一緒に過ごせるプログラムを企画しました。阿蘇の自然の

魅力に加え、人の温かさも感じられるだろうと」

あいにくと立ち上げ直後にコロナ禍に見舞われたが、マックス氏はコロナ禍収束後の未来に期待をかける。

「環境問題への意識が強い海外とりわけ欧州発の観光客には、サステナビリティを意識したツアーを構築する必要がありますが、ここには里山で培われた素晴らしい暮らしがある。さらには、阿蘇の草原は二酸化炭素の大きな吸収源、と語れるのも強みです」

マックス氏の視点は、地元で働く外国人にも向けられている。

「現在、宿泊業や建築関係の技能実習生などを含め約一〇〇名の外国人がいます。彼らの交流の場をつくりたいと思い、始めたのがinternational（国際的）な持ち寄りランチ会です。internationalという言葉を使ったのは、日本人、つまりは地元の人も関わってほしいという思いがあつてのことでした」

参加者にとって和む機会になっているのはもちろん、それぞれの母国語を紹介するといった住民を巻き込んだイベントが生まれてい



マックス氏が企画した南小国の里山の暮らしにふれられる「Satoyama Journey」の農業体験ツアーは高い評価を得ており、コロナ禍後の展開に期待が寄せられる。

るのが面白い。

マックス氏は広く阿蘇地域の通訳案内士としての肩書も持ち、活動の場は町内にとどまらない。その笑顔と行動力がもたらす輪は、次から次へと広がっている。

### 新しい挑戦を生み続ける「黒川温泉一旅館」の理念

南小国町の観光の要的存在である黒川温泉でも、あらたな挑戦が重ねられていた。町並みをそろうえ、

温泉内のすべての露天風呂を利用できる「入湯手形」のもてなしを手掛けるなどして、「露天風呂の黒川温泉」として全国に知られるようになったのは一九八〇年代のこと。一九九四年には「黒川温泉一旅館」の理念を掲げたと振り返るのは、黒川温泉観光旅館協同組合代表理事の音成貴道氏だ。

「三〇軒が一つであるという、黒川温泉一旅館のスタンスは今も変わっていません。かつて一丸となつて改革を進めてきたのは、僕たちの親の世代。その後もなぜ継続できるのかとよく聞かれるのですが、親の一生懸命な姿を見えますし、小さなエリアなので仲よくするのは当たり前。自然に引き継がれている感覚です。持ち回り



江戸時代の細川藩直営の宿が礎になったといわれる黒川温泉は現在、夫婦滝へと続く清流である田の原川に沿って旅館が建ち並び、環境保全の取り組みも早くから行われてきた。

黒川温泉観光旅館協同組合代表理事の音成貴道氏（右）と、組合事務局長の北山元氏（左）。組合設立60周年を迎えた2021年、体制強化を図る計画として「2030年ビジョン」を発表した。組合を運営する中心メンバーの中では、50代の音成氏が最年長で、多くを40代が占める。



で行う神社やお寺の掃除やどぶさらいにも、一人も欠けることなく参加します」

環境問題への取り組みも先駆的に発信してきた、黒川温泉の現在の課題は人材の確保。二〇二〇年には、従業員のキャリアアップや次世代リーダー育成を目的とする「黒川塾」が立ち上げられた。

「約六七〇人が黒川温泉で働いていますが、旅館は家業としての営みが基本ということもあり、若い世代にとってキャリアの先を見通すのは難しい。黒川塾で学んだことは他での経験にも生かせますし、

2012年には放置竹林の間伐、再生活動として、竹ひごでつくる灯籠の明かりが温泉街を彩る「湯あかり」がスタート。冬の風物詩となり誘客につながった。



(写真提供：黒川温泉観光旅館協同組合)

キャリアを重ねてから黒川に戻って来る流れも見据えています」

二〇二二年二月には、雇用に関する専用ウェブサイトをスタート。組合事務局長の北山元氏<sup>はじめ</sup>が、その意義について話してくれた。

「各旅館の特徴や雇用条件といった基本情報はもちろん、それぞれの宿のビジョンや求める人材、そこで築けるキャリアも、ここでは語られています。たとえば、ある宿の取り組みが農業や食に特化していれば、農学部が食に興味を持つかもしれません。ご自身のスキルを生かすという視点で、働く場を選んでいただきたいと思っています」

あか牛の「つぐも」事業（「継ぐ」と「牛（モー）」を意味する造語）もまた、あらたな一歩だ。南小国町

をはじめ阿蘇一帯の草原で放牧されているあか牛は、これまでも黒川温泉でも提供されてきた。しかし、地元ではあか牛を牛肉用に育てたり、食肉処理したりということができず、いったん地域外に出されるため、地産地消が完結できていなかったと北山氏は語る。

「顔が見える農家が育てた肉を黒川で召し上がっていただき、地域の経済に還元、循環させる。あか牛を召し上がった方々からいただく対価の一部を、あか



上／草原で放牧されて育つあか牛の肉は脂肪分が少なく、赤身肉そのものの旨味が堪能できる。下／他の地域の方が活性化に携わり、その活動に応じて各種サービスが利用できる「第二村民構想」は2017年に誕生し、今なお黒川温泉を支える力になっている。（写真提供：黒川温泉観光旅館協同組合）

牛の購入やPR活動などに活用する。阿蘇の草原を守り、そこで育つあか牛の堆肥を活用すれば、昔からある循環型農業を受け継ぐことにもなります」

南小国町一帯は福岡県まで続く筑後川の流域であり、この地での影響が中下流域に住む人々や遠く海にまで至るがゆえ、自然を守る重い責任が自分たちにはあると北山氏は言う。

「観光での体験は、阿蘇の景観の維持管理につながる。あか牛もその流れの一つで、味わうことで環境を守る当事者になる。将来的には、より多くの方にそういう意識を持っていただきたいですね」



熊本県平成の名水百選にも選ばれた「立岩水源」は、県内外から多くの人々が湧き水にくみに訪れる。



名水に恵まれた南小国町にはそば処が多く、専門店が並ぶ「そば街道」は観光客にも人気が高い。



## 山の資源を未来へと継ぐための理念あるブランドづくり

ブランド杉「小国杉」を受け継ぐ林業では、家具のデザインから製作、建築まで幅広く手掛ける株式会社Foreque代表取締役の穴井俊輔氏の活動が国内外から注目されている。穴井氏は長く海外を旅した後の一〇年前、家業であり現在も父親が営む製材業を



「コロナ禍の影響で、自分が何年先にもきちんと向き合えるものしか買わなくなったという声を、最近周囲で聞くようになりました」と話す、Foreque代表取締役の穴井俊輔氏。ふるさと納税を利用した、Forequeの家具購入も増えているそうだ。

継ぐために南小国町に戻ってきた。そして、全盛期には約四〇社あった製材所が四社になっていた状況に危機感を抱き、活性化を図る目的で二〇一六年に同社を立ち上げた。

「僕が思ったのは、南小国の風景や暮らし、小国杉の歴史といった目には見えない心の資本をどうやって積み上げていくかがこれからの課題ではないかということでした。より広く捉えるなら、一〇〇年にわたり受け継がれてきた阿蘇の草原とそこでの営みから小国の杉が生まれてきたという、背景への共感や感動を伝えなければモノは売れない時代になっているのではないかと」

そんな思いを込め、二〇一七年

エッセンシャルオイルやポプリ、アート、小国杉を使った椅子やテーブルなどが並ぶ、Foreque内はショールーム兼ショップになっている。小国杉は油の含有率が高く、使い込むうちに艶が出るという。



に立ち上げたプロジェクト「FILL」のコンセプトは「満ちあふれた人生」。小国杉を使った家具が世界的なブランドの広告にも採用されるなど徐々に成果が実り始めたのは、デザイン性だけではなく理念が高く評価されたことだ。「根本にあるのは、この里山の景色を守ること。五〇年後、一〇〇年後のために山々をどう維持管理



していくのか。理想的な山づくりの一步がFILLです」  
さまざまな経験を経て、家業でもある製材所を守ることも、大事なことだと気づかされたそうだ。  
「製材所がなければ、たとえ目の前に山があっても、地元にいる自分たちだけでは何もできない。山や製材所といった伝統や文化を次世代へつなげていくことが、僕の使命だと思っています」

穴井氏が子どもたちに未来を託す場として、中学生向けのファブラボがあり、そこではまず、中学生自身がパソコンでプログラミングすることから作業が始まる。そのプログラミングデータをレーザーカッターに入力すると、カッ

中学生のためのファブラボ施設、エッセンシャルオイルをつくる工房もあるForequeは牧歌的な景色の中に。



ターが木材を自動で切断する。その後、自分でその木材を組み立て、仕上げ加工までを行う。デジタルとアナログの融合が特徴的だが、作業そのものよりも穴井氏が大切にするのはストーリーだ。

「林業は植林してからお金になるまで約八〇年かかりますから、自分たちの曾祖父や祖父が植えた木を次の時代のニーズに合わせて加工することに価値があると伝えていきたい。木を介した子どもたちの育成。つまり木育が、山を育てるのではないのでしょうか」

人材確保が課題だった製材所にも、新しい風が入り込んでいます。県外からの就職希望の問い合わせは増え、二〇二二年四月には二人の新卒生が仲間入りする。また、二〇二二年末には桜並木が見渡せる敷地内にカフェが完成とか。人のやさしい流れが生まれることだろう。

## 子どもたちの心に刻まれる町の未来を考える体験

あちらこちらで多くの人々の挑戦が花開く状況をふまえ、町長の高橋氏はこう語る。

「町の規模が小さいからこそ、顔が見える関係性の中でできることがある。課題が多いからこそ、課題先進地になり得る。多角的な視点で物事を見ることにより、マイナスをプラスに考えられるのではないのでしょうか」

Forequeの近く、竹の熊天満宮境内の「竹の熊の大ケヤキ」は樹齢一〇〇〇年以上。西日本では最大のケヤキ。穴井氏にとっては、幼頃の遊び場だった。



大小の石が人為的に置かれ、古代の祈りの場だったともいわれる「神戸石の丘」。



職場体験プログラム「まちインターン」は、町内の中学2年生を対象に行われる。(写真提供：南小国町教育委員会)

現在、生活・経済圏や、観光圏を共有する隣接の小国町、産山村さらには広く阿蘇郡市の市町村とも連携が進められる一方、地元の子どもたちには地域を思う体験の場が設けられている。その一つが、中学生の「まちインターン事業」だ。「単に仕事を手伝うのではなく、もう一歩踏み込んで職場の課題解決のために自分は何ができるのかを考えてもらいます。町長秘書のインターン生もいて、最近も観光誘客のための動画内容について、一緒に知恵を出し合いました」

子どもたちが町の未来を考え、アイデアを発表する「南小国町小・中学生プレゼンテーション大会」もまた、地域を思う彼らの意識を育むことだろう。

「現在、南小国町の子どもたち

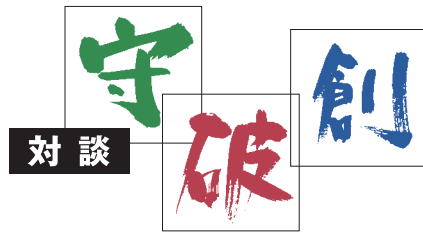
が地元で学べるのは中学校までですが、経験を積めるなら外に出ることはマイナスではないはず。故郷が楽しそう、面白そうだから将来は戻ってみようという流れが醸成できると期待しています」

一見、先駆的にも思える南小国町の動向について話を伺ううちに気づかされたのは、昔ながらの人のつながりや温もりが礎としてあること。里山同様に小さなコミュニティで当たり前のように守られてきた絆がこの先も、さらなる挑戦を生むのではないだろうか。



中心地から少し離れば、山々と草原が連なる美しい景色が望める。神戸石の丘からの眺めの先にあるのは、釈迦が横たわった姿に似ていることから涅槃像と呼ばれる阿蘇五岳。





# デジタル化の中で立ち止まり 問い直す哲学の姿勢に学ぶ

「分かっていたことを分からなくさせる」という、奥の深い哲学の価値とは何か……。急速に世界のデジタル化や効率化が進む中、変わりゆく社会、経済とともに人はどうあるべきなのか。哲学者の野矢茂樹氏と黒田東彦総裁が哲学的な視点で語り合う。

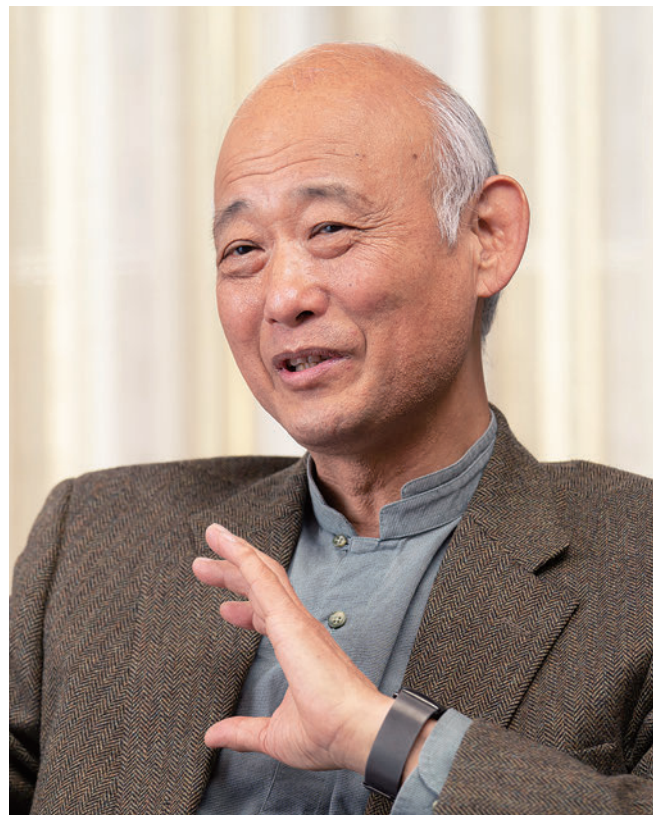


日本銀行総裁

## 黒田東彦

KURODA Haruhiko

1944年福岡県生まれ。67年東京大学法学部卒業後、大蔵省（現財務省）に入省。71年イギリス・オックスフォード大学経済学修士号取得、75年から78年までIMF（国際通貨基金）に出向、96年大蔵省財政金融研究所長、97年同国際金融局長、98年同国際局長、99年財務官、2003年内閣官房参与、同年一橋大学大学院経済学研究科教授（兼務）、05年アジア開発銀行総裁、13年3月日本銀行総裁就任、同年4月同再任、18年4月同再任。



立正大学文学部哲学科教授・東京大学名誉教授

## 野矢茂樹

NOYA Shigeki

1954年東京都生まれ。78年東京大学教養学部教養学科科学史・哲学分科卒業。85年東京大学大学院博士課程単位取得退学。東京大学大学院教授などを経て、現在、立正大学文学部哲学科教授を務める。専攻は哲学。主な著書に2006年『ウイトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む』（ちくま学芸文庫）、10年『哲学・航海日誌Ⅰ・Ⅱ』（中公文庫）、12年『心と他者』（中公文庫）、15年『大森荘蔵—哲学の見本』（講談社学術文庫）、16年『心という難問 空間・身体・意味』（講談社）、20年『語りえぬものを語る』（講談社学術文庫）、22年『ウイトゲンシュタイン『哲学探究』という戦い』（岩波書店）など。

## 新たなものを生み出す 空間を共有する 話し合い

**黒田** 野矢先生とお会いするのは初めてですが、実は哲学や論理学に関するご著書を拝読するたびに、なるほど、そうだと意見が一致し、親しみを感じておりました。本日はデジタル社会における、人々の認識と行動様式などの変化について伺いたいと思っています。

コロナ禍の影響で大学の授業もオンライン化が広がっていますね。対面型の授業とはどのような違いを感じていらっしゃいますか。

**野矢** 同時双方向型ライブ形式のオンライン授業でも「時間」は共有できません。ただ、これは「空間」を共有することはできない。ここで言う空間とは、私を中心に開ける知覚的な空間のことですが、この

空間の共有がわれわれにとってとても大きな意味を持つているのかなど。オンライン授業には教室がありません。教室という場を共有することが、実は意外と大事なことだったのだと思われています。

**黒田** 日本銀行でもオンライン会議が増えましたが、情報交換は十分にできていると思っています。しかし政策などに関わる中枢の会議は、その場に集まって議論をした方がいいという感覚があり、人数を減らすなどして対面で行っています。

**野矢** 新しいことを見いだしたいときには、同じ場を共有するというのがいい効果を生むように思えますね。

**黒田** 最近では、G7のような中央銀行の総裁が集まる国際会議もオンラインから対面に戻っています（二〇二一年十一月現在）。コーヒープレー

クやダイナーの際、さまざまな人と場外でいろいろな非公式の意見交換ができることもメリットだと思っていますが、これはオンラインでは難しいことです。

**野矢** 私は落語が好きで、コロナ禍でお気に入りの落語家がオンライン配信したのを見たのですが、やはり物足りない。落語は寄席という狭い空間で観客に語りかけてくるのが本領だという気がします。こうやって実際にお会いするとうことは、身体が共にこの場に位置していて、動いていく。手を伸ばすと触れられるわけですよ。場合によっては、においなど五感に訴えてくるものがあるかもしれない。ただはつきりはしないのですが、ここが大事なポイントで、対面には親密な空間、皮膚的な感覚があるのだろうなど。それが、親密さへとつながって

いく。もう一つのポイントは、何か新しいことを考えようというときには偶然やノイズがとても大事ということでしょうか。オンラインでは入り込みにくい気がします。

**黒田** オンライン会議では時間も限られていますし、事前に準備した意見をお互いに述べるのが中心になってしまいうことも多いです。それと似ているかもしれませんね。

**野矢** 一方、対面の場合は話が脱線し、揺らいでいく。この揺らぎが新しいものを見いだすのに大切なんです。でも情報の枠組みが決まっていると、あまり揺らいでいけません。たとえば私は授業で、こんな話をします。ここにペットボトルがある、では、実物は目の前にありますかと。実物は目の前にあるとわれわれは思っているわけですが、でも、その認識は脳が見せているイメージ

でしょう。「これはどこにあるの？」とテレビの画面を指しているようなものじゃないですかと。そうすると、実物がどこにあるか分からなくなってくる。さあ、本当に実物とイメージというのは二つに分かれているのでしょいか……と揺さぶり始めるわけです。

### 効率的だが偶然性に乏しい デジタル社会の課題

**黒田** 今やSNSなどで好きなことを発信できますし、全世界の個人といろいろなやり取りができる。すばらしい進歩ではありますが、展開がバラエティーに富むよりもむしろ、時折炎上が見られるような極端な意見が広がる傾向がありますよね。

**野矢** 多元化してもよさそうなのに、二極化しがちな現象はありますね。虚偽も入り混じっ

てきます。デジタル化で情報

を知りやすくなったのは本当にありがたいし、たとえば本にしたってインターネットで注文するのは便利です。でも、買いたい本が決まっている人にとっちはいい売り場だとしても、書店で何かないかとぶらぶらする楽しみや、こんな本があったんだという偶然性を取り込む仕掛けがオンラインストアには乏しい。同じことがソーシャルメディアの情報発信にも言えて、受け手は自分の求めるものを選びます。結果的にスクリーニングして入りますから、気に入った情報しか入ってきませんし、ある人物を支持している人はその人物に対して好意的な記事しか読まなくなる。そうやって偶然性がなくなってきたこの一つではないかと思えます。グローバル化や迅速化、効率

化は必要なかもしれませんが。

とはいえ同時に、ローカルな視点や、非効率的と言われるような視点をちゃんと持つっておかなければ、人間として力がどんどん衰えていくのではないかと思えます。「損して得取れ」という表現があります。経済の世界でもあまり短期的な利潤を求めて効率化していくと、長期的には衰退するようにも思えます。素人考えかもしれませんが、その点はどうお考えですか。

**黒田** 私も全く同じ意見です。リスクを冒して何かをする場合、短期的な利益の追求は難しいと思えますね。

**野矢** 学問の世界も、最近は短期的な成果ばかりが求められるようになっていきます。さらには、文系が軽視されていく。その最たるものが哲学です。哲学を研究していると、それは何の役に立つんですかとい

う質問にしばしば当たります。

哲学のように、分かっていたことを分からなくさせることに対して、人は価値を見いだしていく。けれども、分かっていたつもりの方が分からなくなるというのは、実は大事なことだと私は思っています。一つのフレームの中だけで動いていたら、想定外の事態には対処できないし、新しいことを生み出すこともできません。

**黒田** デジタル技術の発達は、経済活動や金融の世界にも非常に大きな影響を与えています。たとえば経済分野でもAIが取り入れられ、海外の金融機関ではさまざまな要素を考慮しながら具体的に融資を判断する試みも始まっています。AIは非常に有益な道具であるのは事実です。しかし融資の話で言えば、多様な判断やデータをAIに学習させたこ



とにより、人がこれまで無意識のうちに行ってきた偏見に近い区別を、むしろ如実に反映してしまうことがわかってきました。結果的に、AIだけではなく融資判断そのものの枠組みについても考え直す必要があるのではないかとこの議論も出てきています。

**野矢** 前の世代のAIでしたら、プログラムされたことしかやらなかった。つまり、マニュアルに従うことしかできませんでした。今はビッグデータを取り込み、そのデータに基づいて学習していきます。そうすると、どうしたって現状追認型になる。現状が変わればAIの対応も変わっていくでしょうが、逆にAIに現状を変える力はないわけです。

AIは非常にいい判断をしてくれますが、まず個人を見ないのが問題です。先ほどの融資のお話で言えば、データ上

のどのタイプの人なのか、ということで見分けるしかない。事実と経験をもとに一般論で動くだけで、個人というものが無い。そしてまた、どうするべきかという規範性がありません。そのため、道徳的には絶対に取りえない判断をAIが導くこともありうる。その点において、どうやってもAIは人間の代わりにはならない。

**黒田** 逆に言うと、代わりにしてはいけませんので、そのメリットを十分生かし、問題があれば、AIのプログラムを人間が変えていかなければいけないということですね。

**コロナ禍を受け止めつつ立ち止まり  
物事を問い直す**

**野矢** 素朴な質問になります。経済・金融はもともと非物質的でバーチャルな性格も

持っていますよね。そもそもお金はバーチャルなものでしょう。とはいえ現状では、お金は実際に紙幣や硬貨という物としてリアルにそこにあるわけです。それがキャッシュレス化の進展で、よりバーチャル化しているように感じています。現在は日本銀行がお金を安定して使えるようにしていると思いますが、将来は紙幣や硬貨を造らなくなり、数字だけで追うようなことになっていくのでしょうか。その結果として、お金をうまくコントロールできなくなってしまう、経済へ甚大な影響が出てしまうという可能性はないのでしょうか。

**黒田** その点においては大丈夫だと思いますが、キャッシュレスはお金の動きがリアルに目に見えず、コンピュータネットワーク上に誰々のお金がいくらありますという情報

が集まるわけです。ペーパー

による管理でしたら、ばらけて  
いますから一挙にその情報を  
取ることはできませんが、全部  
がシステムに入っていると  
なると、なんらかのトラブルで  
そのシステムがダウンしたり、  
ハッカーにアクセスされたり、  
というときのリスクが巨大だ  
という課題はあります。

**野矢** リスクは分散化しなけ  
ればいけないけれど、情報は  
集中したほうが効率的。効率  
化を目指すのとリスクマネジ  
メントというのは、逆方向の  
部分がありますね。

**黒田** また、たとえば現金に  
は無記名性があります。しか  
し、お金を全て電子化すると、  
誰がどこで幾ら使ったという  
のが、そのシステムを運営し  
ている人には全て把握できて  
しまいますよね。だから、そ  
れが分からないようなシステ  
ムをつくるべきではないかと

いう議論も生まれています。

**野矢** 今、都市部ではこの街  
角にもカメラがあり、監視社会  
のようになっていきます。犯罪  
の抑止力や検挙率には非常に  
有効に作用しているのではし  
ょうが、同時にわれわれは居心  
地の悪さも感じている。今の  
お話は、そういう問題ともつ  
ながりますね。カメラで言え  
ば、別に悪いことをするので  
はなくとも、誰にも見られ  
たくないことであるじゃない  
ですか。私は、疲れてうんざ  
りしちゃうと、近所の山をひ  
とりでぼたぼたと歩くんです。

自分にとってはとても大切な  
ひとときなのですが、そうい  
う誰にも知られない時間や環  
境がどんどんなくなっていく  
のはとても居心地が悪い。裏  
表のある人というのは悪い意  
味で言われますが、表があり  
裏があるのはやはり普通の在  
り方だし、全て表にさらけ出

さなければならぬのはおか  
しいなと思うんですよね。

**黒田** 基本的にデジタル社会  
というのは透明性が高まり、情  
報流通の広がりやそのスピー  
ドが増えます。一方で、プライ  
バシーの範囲が狭くなる傾向  
がどうしてもある。とはいえ、  
デジタル化は社会生活や経済  
活動において便利で有益な面  
がありますから、全てを否定  
して昔の生活に戻るのは無理  
だと思います。だから、野矢  
先生が言われたような面も同  
時に考えていかなければなり  
ませんね。

**野矢** たとえばAIが本当に  
支配的になったら人間の出る  
幕はなくなってしまうのか、  
という話がありますが、われ  
われ人間は常識というフレー  
ムを持っている。でもAIは、  
人間のようにできない。フ  
レームそのものを問い直すの  
は、やはり人間の作業なのだ

ろうなと思いますね。

哲学というのは、まさにそ  
ういう思考の枠組みの見直し  
や既存の枠からの脱却を試み  
る、つまり「メタフレーム」的  
な作業をするわけです。これ  
まで皆さんが疑わなかったと  
ころを、哲学者は疑ってみたり  
問い直してみたり、もう少し  
し根本的に考え直してみたり  
します。すぐに成果を生み出  
すものではありません。それ  
でも、立ち止まって問い直し  
てみるという姿勢をもう少し  
哲学から学んだほうがいいの  
ではないかという気がします。

今のコロナ禍は紛れもなく災  
害ですが、それでもポジテイ  
ブに受けとめて考えようとすれ  
ば、世界が強引に立ち止まら  
されている状況も実は大事な  
のかなと思いますね。

**黒田** 本日は、興味深いお話  
をありがとうございました。

## 日本銀行の気候変動に関する取り組み

総力戦で世界が直面する課題に挑む  
日本銀行の気候連携ハブ

多発する自然災害や気温上昇など、国内外で気候変動によるとみられる影響が取り沙汰されています。日本銀行では、気候変動問題に関し、これまでも海外の中央銀行との意見交換や国際的な議論への参画を進めてきました。また、国内では金融機関などの幅広い関係者と対話を重ねるなど、対応に力を注いできました。こうした中、体制を強化し、この対応をさらに多面化するため、二〇二一年初めに立ち上げられたのが行内組織「気候連携ハブ」です。同年七月には気候変動に関する日本銀行の包括的な取り組み方針を公表しました。日本の物価と金融システムの安定を維持し、さらには海外の中央銀行などと協調しながら気候変動問題に取り組むために、どのような業務が行われているかをご紹介します。

気候連携ハブを立ち上げ  
取り組み方針を公表、  
多面的に課題に取り組む

「社会・経済に広範な影響を及ぼし得る気候変動問題は、グローバルに重要な課題です。物価と金融システムの安定という日本銀行の使命にも大きく関わるため、われわれはこれまでも積極的に対応を進めてきましたが、政府や、金融機関を含

めた民間企業などの取り組みが活発化する状況も踏まえ、二〇二一年初めに八つの局室が連携を図る『気候連携ハブ』を立ち上げ、さらなる一歩を踏み出しました。その上で、同年七月には気候変動に関する日本銀行の包括的な取り組み方針を公表しました」

そう話すのは、国際局兼企画局審議役で、気候連携ハブ総括の中村康治さんです。気候連携ハブは政策委員会室、企画

局、金融機構局、決済機構局、金融市場局、調査統計局、国際局、金融研究所からなる行内組織。金融政策から金融システム、調査研究、国際金融、業務運営・情報発信まで、その取り組みは包括的かつ多岐にわたっています。そのため、具体的な施策や役割分担の調整、そして関係者による情報共有が重要だと中村さんは語ります。

「気候変動は、まだ不確定な要素が多い問題です。世界的に見てもこの課題への対応について何が望ましいのか、どこまで進めればいいのかなど見方が定まっていない部分もありますが、取り返しがつかなくなる前に行動を起こさなくてはなりません。さらには、気候変動は経済、物価、金融に広く影響しますので、多面的にアプローチする必要があります」

## 気候変動対応オペにより 金融機関の取り組みを後押しする

多面的なアプローチの一つ、金融政策手段の企画・立案を担う企画局企画調整課企画役の武田憲久さんは、金融機関に対して投融资のバックファイナンスを行う「気候変動対応オペ（気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション）」の立ち上げに力を尽くしました。

「中央銀行である日本銀行による民間の気候変動対応支援は、中長期的に見てマクロ経済の安定に資するものと考えています。日本の状況に合わせてどのような仕組みにするべきか、さまざまな金融機関にヒアリングを重ねながら検討を進めました。金融機関の皆さまから非常に高い関心を持っていただき、金融機関が取り組みを進める追い風となっており、という声を聞いたのがうれしかった。

「たですね」  
資金供給の対象先は、気候変動対応に資する取り組みに関し、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）が提言するガバナンス、戦略など四項目と投融资の目標、実績を開示している金融機関。初回となる二〇二二年十二月には、四三先を対象に、約二兆円の資金供給が実施されました。貸付期間は原則一年としつつ更新も可能で、最長二〇三〇年度

## 今後 10 年間に世界規模で最大の被害をもたらさうリスク

順位	リスク	環境	社会	経済	地政学
1	気候変動への対応の失敗	環境			
2	異常気象	環境			
3	生物多様性の喪失	環境			
4	社会的一体性の低下		社会		
5	生活の危機		社会	経済	
6	感染症		社会		
7	人類による環境破壊	環境			
8	天然資源の危機	環境			
9	債務危機			経済	
10	地経学的な対立				地政学

〔出所〕 World Economic Forum 「The Global Risks Report 2022」

世界規模で最大の被害をもたらさうリスクをまとめたランキングにおいて、気候変動問題を含めた環境関連リスクが上位を占めている。

## 気候変動に関する日本銀行の取り組み方針

- 気候変動問題は、将来にわたって広範な影響を及ぼさうグローバルな課題
- 社会・経済を構成している各主体による積極的な取り組みが求められる

日本銀行は、物価の安定と金融システムの安定という使命に沿って気候変動に関する取り組みを進めるため、包括的な取り組み方針を決定

金融政策

金融システム

調査研究

国際金融

業務運営  
情報発信

気候変動が、経済・物価・金融システムにもたらす影響は、不確実性が高く、時間の経過に伴って大きく変化する可能性

➡ 今後も、各種の施策について、不断に検討を重ね、対応していく方針

2021年7月、気候変動に関する包括的な取り組み方針を公表した。「気候連携ハブ」を通じて連携を図りながら、この方針に沿って、各部署が取り組みを進めている。方針の概要は上図のとおり。全文は日本銀行ホームページをご覧ください（[https://www.boj.or.jp/announcements/release\\_2021/rel210716b.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/release_2021/rel210716b.htm/)）。





経済や金融に与える影響について調査研究を深めるとともに、データ収集や分析手法の高度化などを進めている。この「気候変動の経済学」というレポートもその一例だ。

まで実施される制度です。

「二回目以降、準備ができたところからの参入も可能とするなど制度自体に柔軟性を持たせ、日本銀行として息長く支援できる仕組みとしました。先行する金融機関の情報開示が充実することで、今後取り組みを進める方々の参考にもなると考えています」

### 金融システム安定のための ヒアリングやシナリオ分析

気候変動は金融機関の経営や、ひいては金融システムの安定にも大きな影響を及ぼすと話すのは、金融機構局総務課企画役の田上亮輔さんです。

「金融システムの安定に関しては、自然災害により建物などが壊れるといった物理的リスクとともに、規制や消費者の

嗜好<sup>しこう</sup>の変化が金融機関の経営に影響を及ぼす移行リスクが想定されます。金融機構局では、こうしたリスクを適切に把握し、金融機関におけるリスク管理などの取り組みを後押しすることで、金融システムの安定性確保と金融仲介機能が円滑に発揮されることを目指しています」

二〇二一年からは、金融庁と連携したシナリオ分析も手掛けられるようになりました。

「気候変動に関するリスクは不確実性が高く、データ制約もあって定量的に測り難いものですが、現在、こうしたリスクを把握するために、シナリオ分析の試行的取り組み(パイロットエクササイズ)にチャレンジしています。具体的には、金融庁や大手金融機関と連携の上、NGFS(国際的な金融当局間のネットワーク)が提供する気候変動シナリオを活用して、将来に向けた分析を進めています。また、金融機関との間では、脱炭素に向けた取引先への支援状況や金融機関自身の情報開示の充実などについて、ヒアリングも行っています。気候変動問題は、不確実性の高さとともに、時間軸の長さも特徴だと思えます。今後も、内外の関係者と連携して、状況把握やリスク管理の高度化を進めていきたいと考えています」

### 気候変動問題の影響を調査分析し その手法の高度化を進める

気候変動問題が経済・物価などのマクロ経済や金融市場、金融システムにもたらす影響について調査研究を深めている部署の一つが、金融研究所経済ファイナンス研究課です。同課企画役の米山俊一さんは、研究所が発行する「金研ニュースレター」での連載「気候変動の経済学」を紹介してくれました。

「気候変動は人間の経済活動に伴って排出される温室効果ガスが関わっていると考えますが、一方で気候変動による自然災害が経済活動に影響を及ぼすという面もあります。経済学では、こうした両者の相互作用をモデル化し、政策効果を定量評価する試みがなされてきました。『気候変動の経済学』は金融研究所のウェブサイトで公表しています。この分野で蓄積された学術的知見をより広く、分かりやすく世間の皆さまにお伝えするのは大きな意義があることだと思っています」

研究所は新たなデータの収集や分析手法の高度化も進めており、最新のマシンラーニング(注1)の手法を用いたより精緻な分析などに取り組んできました。



「とはいえこの分野ではまだ明らかではないことが多い上、問題は多岐に及びます。例えば、CO<sub>2</sub>排出による将来の大規模な社会的損失とこれを抑制するために必要な大規模な社会的対応コストのバランスをどう取るかなど、評価が難しい点が多々あります。

ですが、経済に大きな影響を及ぼす気候変動問題は、中央銀行にとっても重要な課題であり、経済学やさまざまなサイエンス分野がどのような解決法や指針を示してくれるかについて、研究を続けていかなければならないと考えています」

(注1) プログラム(機械)が与えられたデータから自動でデータやそれを生み出す背景に関するパターン性を見つけ出す(学習する)分析手法。

### 多くの人が関わる金融市場の包括的調査が期待できるサーベイ

気候変動に関わる金融市場の動向や機能度を調査し、市場基盤整備に関する課題の検討を進めているのは、金融市場局総務課市場分析グループ企画役の長谷川達也さんです。

「金融機関、格付け会社、アセットマネージャー、アセットオーナーなど、幅広い市場関係者と意見交換を行いながら、気候変

動に関する金融市場の動向の把握に努めています。市場は着実に拡大していますが、さらなる発展にはまだ課題が多いのが現状です」

ESG投資(注2)の発展に向けた課題とその克服への取り組みを、「日銀レビュー」というレポートにして紹介するなど、情報発信も行われています。加えて、二〇二二年度からは、気候変動に関する金融市場の機能度や課題を調査するための新たなサーベイの実施が予定されているとのこと。

「気候変動対応においては、リスクだけでなく、例えば再生可能エネルギーへの需要が高まるといった新たな機会も生まれます。金融市場を通じて必要な資金が効率的に供給されるためには、リスクと機会の双方がきちんと金融商品価格に反映されることが重要です。こうした市場の機能度や今後の課題について、幅広い市場関係者を対象に継続的にサーベイを実施し、公表していくことが大切だと考えています。サーベイの結果を市場関係者で共有することで、市場の整備・発展に向けたさまざまな取り組みを推進していく機運の高まりにつながることにも期待しています」

(注2) 従来の財務情報だけでなく、環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)の要素も考慮した投資。

### 各国の中央銀行と連携しながら気候変動問題の解決に貢献する

気候変動問題は国内だけにとどまるわけではないため、海外との連携が必要です。国際局国際連携企画役の平井崇志さんは、国際会議の場で日本銀行の取り組みを発信し、気候連携ハブでは関係部署へ海外の情報を還元する橋渡し役を務めています。

「最近の国際会議における最重要課題



G7やG20などの国際会議や各国中央銀行との会合を通じ、国際的な気候変動に関する取り組みの進展に貢献している。



気候変動に関する取り組み全般について、講演などを通じて、役職員が積極的に対外説明を実施している。（撮影：野瀬勝一）

は新型コロナウイルス感染症拡大の下での経済金融情勢ですが、それに並ぶのが気候変動問題です。この問題への取り組みは欧州が先行しているイメージがあるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。例えば、日本銀行は気候変動対応オペという新たな仕組みをいち早く導入しました。このオペに対する海外の中央銀行からの注目度は非常に高いです。国際会議の場では、オペに限らず日本銀行の各種施策をしっかりと説明し、気候変動問題解決のための国際的な議論に貢献するよう努めています。また、他国の中央銀行の取り組みも参考にすることで、互いに連携しながら、問題解決に

寄与していきます」

国際会議に臨むにあたっては、日本がアジアの一員であることも意識しているそうです。

「アジアは成長過程にある国々が集中しており、CO<sub>2</sub>を排出せざるを得ないという状況も鑑みながら、アジア各国の中央銀行と連携を図ってきました。また、アジアにおいて気候変動問題に取り組む企業に十分な資金が行き渡るよう、各国の中央銀行との協力を通じてグリーンボンド（注3）などへの投資拡充を図り、市場育成も進めています。また、日本銀行保有の外貨資産を活用し、従来の方針の下で外貨建てのグリーン国債などの購入も行っています。国際会議においては、日本がアジアの現状を他地域の方々に説明する役割を担うことも多いです。アジアを代表して国際会議に臨むことは、大変重責ではありますが、そこにやりがいを感じています」

（注3）企業や国などが、グリーンプロジェクトに充てる資金調達のために発行する債券。

**気候変動に関する取り組みを講演や専用ページなどを通じて広く発信**

国際局の平井さんは、気候変動に関する

る日本銀行の取り組みについて、情報発信も担っています。

「日本銀行の取り組みについては、総裁による講演などを通じて、積極的に情報発信しています。また、広く皆さまにご理解いただくために、ホームページに新設した気候変動対応の専用ページにおいて、講演内容や調査研究結果などを包括的に掲載しています」

さらに、対外説明充実の一環として、日本銀行としてもTCFDによる推奨内容を踏まえた開示を今後予定しています。その役割を担っているのが、政策委員会室経営企画課企画役の杏脱誠さんです。

「情報開示に向けて、現在、検討を進めています。気候変動関連の開示を巡る最新の動向をフォローしながら、必要な対応を図っていきたくと考えています」

**長年にわたり重ねられてきた省エネルギーや自然災害への対策**

日本銀行の業務運営においては、気候変動への対応を意識した取り組みが継続的に行われてきたと話すのは、文書局総務課総務企画グループ長で企画役の三富俊行さんです。

「気候変動問題が活発に議論される以前から、設備の管理に関しては省エネルギー

ギーへの配慮に努めてきました。業務継続という点では、例えばこれまで水害が想定されていなかったエリアでもリスクの見直しが必要になる中、変化するハザードマップのチェックに努めながら、万が一の対応を検討しています。先人から脈々と受け継いできた取り組みを、われわれも引き継いでいかななくてはなりません」

同グループ主査の美濃田真さんによれば、温室効果ガスの排出削減にも地道な努力が積み重ねられてきたのだとか。

「設備を省エネルギー型に変えるなど細かい対応を進めてきた結果、エネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量は減少傾向にあり、国や地方自治体が条例で定めた目標をクリアしています。水害をはじめ自然災害のリスクに関しては、実際に何か起きてからでは手遅れです。とりわけ中央銀行である日本銀行には重い業務継続の責務がありますから、現状に適切に対応し、対策をよりバージョンアップしていくことが大事だと思っています」

\*\*\*\*\*

「気候変動問題への対応は、日本だけの課題ではなく、世界が同方向へ進む地球規模の総力戦です。その中で、中央銀行である日本銀行は何ができるのか。今後、気候変動に関する情勢変化を適切



ここをクリック

(<https://www.boj.or.jp/about/climate/index.htm/>)

日本銀行ホームページに、気候変動に関する取り組みについて包括的にまとめた専用ページを設置。ぜひご覧ください。

に把握するとともに、国内外の関係者と密接に情報交換を行い、各種施策について検討を重ねていく方針です」

気候連携ハブ総括の中村さんが語った「総力戦」では、われわれもまた日々の暮らしの中で何かしらできることがある

はずです。今回ご紹介した日本銀行の新たな取り組みに触れていただくことで、気候変動問題に関して改めて考える機会になれば幸いです。

(肩書などは二〇二二年十二月末時点の情報をもとに記載)



# 日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)を決定し、公表しています。本稿では、2022年1月の展望レポート(基本的見解は1月18日、背景説明を含む全文は1月19日公表)のポイントを解説します。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>

## 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)

二〇二二年一月

### 二〇二一～二〇三年度の 中心的な見通し(図表1、2)

#### 【経済】

新型コロナウイルス感染症によるサービス消費への下押し圧力や供給制約の影響が和らぐもとで、外需の増加や緩和的な金融環境、政府の経済対策の効果にも支えられて、回復していくとみられる。その後も、所得から支出への前向きな循環メカニズムが家計部門を含め経済全体で強まるなかで、わが国経済は、潜在成長率を上回る成長を続けると予想される。

#### 【物価】

消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、当面、エネルギー価格が上昇し、原材料コスト上昇の価格転嫁も緩やかに進むもとで、携

帯電話通信料下落の影響も剥落していくことから、振れを伴いつつも、プラス幅を拡大していくと予想される。その後は、エネルギー価格上昇による押し上げ寄与は減衰していくものの、マクロ的な需給ギャップの改善や中長期的な予想物価上昇率の高まりなどによる基調的な物価上昇圧力を背景に、見通し期間終盤にかけて1%程度の上昇率が続くと考えられる。

### 経済・物価のリスク要因

【先行きの経済・物価見通しの不確実性】

リスク要因としては、引き続き変異株を含む感染症の動向や、それが内外経済に与える影響に注意が必要である。また、供給制約の

影響を受けるもとでの海外経済の動向に加え、資源価格の動きやその経済・物価への影響についても先行き不確実性は高い。

#### 【リスクバランス】

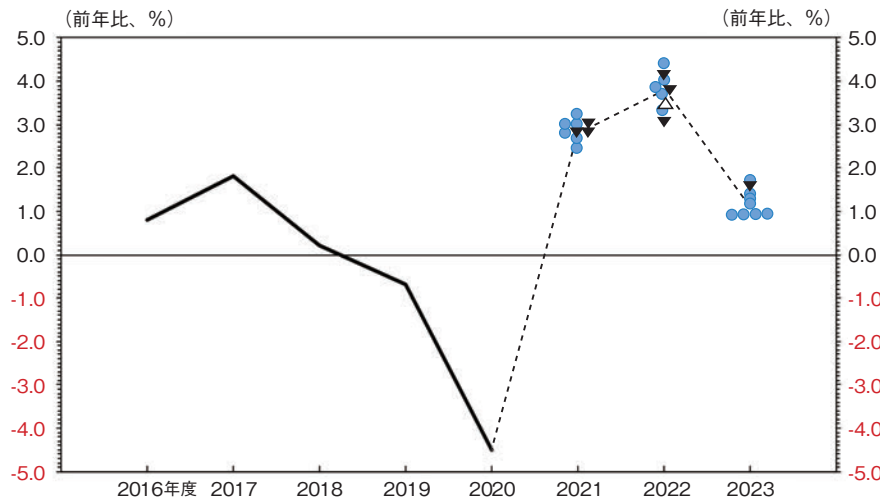
リスクバランスは、経済の見通しについては、感染症の影響を中心に、当面は下振れリスクの方が大きい。その後は概ね上下にバランスしている。物価の見通しについては、概ね上下にバランスしている。

### 金融政策運営

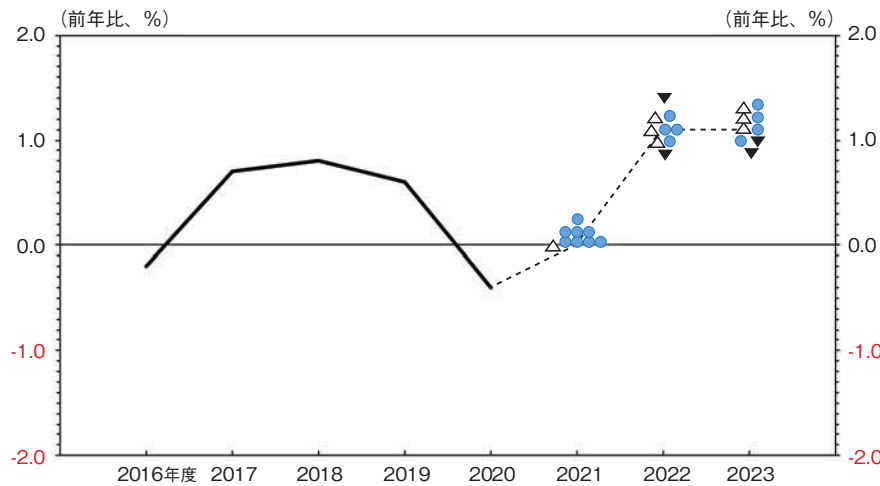
2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する。マネタリーペー

図表 1 政策委員の経済・物価見通しとリスク評価

(1) 実質 GDP



(2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品)



(注1) 実線は実績値、点線は政策委員見通しの中央値を示す。

(注2) ●、△、▼は、各政策委員が最も蓋然性が高いと考える見通しの数値を示すとともに、その形状で各政策委員が考えるリスクバランスを示している。●は「リスクは概ね上下にバランスしている」、△は「上振れリスクが大きい」、▼は「下振れリスクが大きい」と各政策委員が考えていることを示している。

図表 2 政策委員の大勢見通し

(対前年度比、%)

	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2021 年度	+2.7 ~ +2.9 <+2.8>	0.0 ~ +0.1 <0.0>
10月時点の見通し	+3.0 ~ +3.6 <+3.4>	0.0 ~ +0.2 <0.0>
2022 年度	+3.3 ~ +4.1 <+3.8>	+1.0 ~ +1.2 <+1.1>
10月時点の見通し	+2.7 ~ +3.0 <+2.9>	+0.8 ~ +1.0 <+0.9>
2023 年度	+1.0 ~ +1.4 <+1.1>	+1.0 ~ +1.3 <+1.1>
10月時点の見通し	+1.2 ~ +1.4 <+1.3>	+0.9 ~ +1.2 <+1.0>

(注1) <>内は政策委員見通しの中央値。「大勢見通し」は、各政策委員が最も蓋然性の高いと考える見通しの数値について、最大値と最小値を1個ずつ除いて、幅で示したものであり、その幅は、予測誤差などを踏まえた見通しの上限・下限を意味しない。

(注2) 2021 年春に実施された大手キャリアによる携帯電話通信料の引き下げが、2021 年度の消費者物価に与える直接的な影響は、▲1.1%ポイント程度となる。

スについては、消費者物価指数 (除く生鮮食品) の前年比上昇率の実績値が安定的に2%を超えるまで、拡大方針を継続する。引き続き、①新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム、②国債買

入れやドルオレなどによる円貨および外貨の上限を設けない潤沢な供給、③それぞれ約一二兆円および約一八〇〇億円の年間増加ペースの上限のもとでのETFおよびJ-REITの買入れにより、企業

等の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努めていく。当面、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、必要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる。政策金利については、現

在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している。



# 日本銀行のレポートから

「地域経済報告」（さくらレポート）は、日本銀行本支店等が、日頃、企業ヒアリング等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会ごとに取りまとめたものです。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

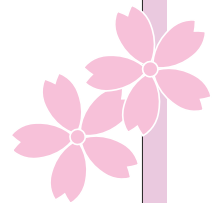
## 「地域経済報告」（さくらレポート）

### 各地域の 景気判断の概要 — 二〇二二年一月 —

各地域の景気の総括判断をみると、サービス消費を中心に感染症の影響が幾分和らぐもとで、いずれの地域でも「持ち直している」「持ち直しの動きがみられている」などとして

	【21/10月判断】	前回との比較	【22/1月判断】
北海道	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横ばい圏内の動きとなっている	➡	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている
東北	新型コロナウイルス感染症の影響などから、持ち直しの動きが一服している	➡	新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が落ち着く中、一部に持ち直しの動きがみられている
北陸	一部に下押し圧力が続いているが、総じてみると持ち直している	➡	持ち直している
関東甲信越	サービス消費を中心に引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している	➡	サービス消費を中心に感染症の影響が幾分和らぐもとで、持ち直している
東海	持ち直しの動きが一服している	➡	持ち直している
近畿	全体としては持ち直しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費への下押し圧力が強い状態にある	➡	消費への新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している
中国	持ち直しの動きが一服している	➡	持ち直しの動きがみられている
四国	新型コロナウイルス感染症の影響から、持ち直しのペースが鈍化している	➡	新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、緩やかに持ち直している
九州・沖縄	持ち直しのペースが鈍化している	➡	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直している

（注）前回との比較の「➡」、「➤」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➤」となる。



## 一万円札の肖像交代を前に 福澤諭吉ゆかりの地で 冬休み特別展示イベント を開催

▼大分支店では、二〇二四年の一万円札肖像交代を記念し、大分県中津市にある福澤諭吉旧居・福澤記念館において、二〇二一年十二月二十一日～二〇二二年一月十日にかけて、冬休み特別展示イベント「昭和・平成・令和 諭吉とお札の四〇年」を開催しました。福澤諭吉が青少年時代を過ごした大分県



開幕セレモニーの様子

中津市では、二〇二一年十一月から、福澤諭吉の功績を官民挙げて改めて顕彰する取り組み「不滅の福澤プロジェクト」がスタートしており、本展示イベントはそのキックオフ事業の一つとして実施しました。

▼今回の特別展示では、感染症対策に万全を期しつつ、大分県金融広報委員会とも連携して、さまざまな展示物を用意しました。具体的には、一万円札の見本券を表面に貼ることで見た目を本物に近づけた一億円の模擬券パックや、お札の偽造防止技術を紹介するコーナー、お札の肖像になりきれ顔出しパネルや新紙幣の見本パネルを持って記念撮影ができるスポットなど、幅広い年齢層の方々が楽しめるコーナーを用意しました。また、旧中津藩の藩札画像と当時の偽造防止技術など、中津に関連した資料も紹介しました。このほか、大分県は日本で一番日本銀行総裁を輩出している県であることを踏まえ、大分県出

身の日本銀行総裁四名（注）と福澤諭吉の関係を整理したパネルや、二〇二四年以降の新紙幣において肖像を務める三名（沢沢栄一、津田梅子、北里紫三郎）と福澤諭吉の関係をまとめた資料など、約二〇点を展示しました。

▼開幕セレモニーでは、鈴木淳人大分支店長が中津市の奥塚正典市長、中津商工会議所の仲浩会頭らとともにテープカットを行った後、中津市立北部小学校の六年生八二名が見学に訪れました。展示イベント期間中は、支店職員が常駐し、展示物の解説を行いました。

新聞やテレビにも複数取り上げられたことから、イベント期間中は、冬休み中の小中学生を含めた家族連れなど延べ一五三一名ものお客さまにご来場いただきました。来場者からは、「日本のお札の偽造防止技術の高さに感動した」といった声や、「福澤諭吉とお札の関係は、新紙幣に切り替わった後も



1億円パック（模擬券）の重さ体験

続いていくことを知ることができて良かった」といった感想が聞かれました。

大分支店では、こうした地域とのつながりを大切に、今後も地域経済の発展に貢献していきます。

（注）第五代総裁の山本達雄、第九代、第一代の井上準之助、第一八代の一萬田尚登、第二六代の三重野康の四名。

## 山形事務所は移転しました

▼山形事務所は、二〇二二年十月、山形銀行本店ビル（山形市七日町）の解体・建て替え工事の決定に伴い、新たに竣工した



トピックス

同行旅籠町ビルに移転しました。

▼山形市は、商工会議所や商店街振興組合などの関係機関と連携しながら、「歴史・文化資源の魅力向上」や「エリアマネジメントによるまちの魅力の向上」などを目指し、中心市街地活性化への取り組みを進めています。

山形銀行では、市役所や山形県郷土館（愛称：文翔館）などが隣接する立地を活かし、中心市街地のにぎわい創出に貢献しつつ、防災機能やBCP（事業継続計画）を強化するため、老朽化した本店ビルを現所在地に建て替えることになりました。

▼山形事務所は、一九四五年八月の開所以来、地域経済の健全な発展を縁の下から支える役割を果たしながら、本年八月で七十七年の歴史を数えます。

▼山形事務所は、これまで

の歴史を礎にして、新たな一歩を踏み出し、今後も地域とともに歩みを重ね、その一層の発展に貢献して参ります。

「決済の未来フォーラム デジタル通貨分科会」  
中央銀行デジタル通貨を支える技術（第二回会合）を開催

▼決済機構局では、標記フォーラムにおいて、企業などで最先端の研究や実務に携わる方々から、中央銀行デジタル通貨（CBDC）に活用し得る具体的な技術や取り組みをご紹介いただいております。

▼二〇二二年十一月二十九日にオンライン形式で開催された会合では、①決済インフラの「強靱性」については、通信ネットワーク技術に関する最新の動向や災害時におけるキャッシュレス決済対応に関して、②決済サービスの「迅速性」については、企業間取引（B2B）や個人・企業間の取引（C2B）などの局面に応じた検討ポイントや具

体的な事例に関して、それぞれ説明と意見交換が行われました。

▼日本銀行としては、民間部門、とりわけ一般事業会社が有する最新の技術やノウハウについて学習し、CBDCの実証実験や制度設計に活かしていくことが大切と考えています。また、こうした活動を続けていくことを通じて、CBDCの検討に関する連携の輪が広がっていくことを期待しています。

▼本フォーラムの議事概要などは、日本銀行ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



「ISOパネル（第四回）  
デジタルトークン識別子（DTI：ISO24165）  
が持つ可能性」を開催  
（二〇二二年十一月）

▼決済機構局では、二〇二二年十一月十七日に標記パネルディスカッションをオンライン会合の形式で開催しました。

▼昨今、暗号資産取引や、トークンを発行して資金調達を行

う手法など、デジタルトークン（注）を用いた金融取引が活発化しています。こうした中、国際標準化機構（ISO）は、

二〇二二年九月に新しい国際標準である「デジタルトークン識別子（DTI：Digital Token Identifier、ISO24165）」を公表しました。この標準では、デジタルトークンを識別する際に用いる九桁のコードの仕様を定めています。

▼パネルディスカッションでは、この新しい標準である「デジタルトークン識別子」の仕様を解説した後、セキュリティトークンの専門家の方々とともに、①トークンの識別によるデジタル空間での円滑な金融取引の実現や、②トークンの第三者確認による詐欺取引の防止など、トークン市場の発展に向けた識別子の活用策について議論しました。

▼決済機構局では、金融サービス分野の国際標準化を検討する国際標準化機構（ISO）・金融



サービス専門委員会（TC68）

の国内委員会事務局を務めています。金融サービス分野の標準化に関心のある方は、日本銀行ホームページに活動内容や取り組みを掲載していますので、ご覧ください。



（注）分散型台帳技術（DLT: Distributed Ledger Technology）を用いた一種のデジタル資産。

## ファイナンス・ワークショップを開催

▼金融研究所は、二〇二二年十一月五日に「データ・サイエンスの企業分析への活用」をテーマとするワークショップをオンライン開催し、約一五〇名が参加しました。

▼副島豊金融研究所長による開会挨拶と金融研究所におけるファイナンス研究の振り返りに続いて、二本の研究が報告され、「データ・サイエンスの発展とファイナンス研究の方向性」をテーマとした対談セッションが行われました。

▼まず、有賀涼主査（金融研究所）が、企業部門の気候変動リスク抑制への取り組みが企業の長期パフォーマンスや株主資本コストに好影響をもたらしていることについて、最近の機械学習の手法を用いて実証した研究成果を発表しました。

▼次に、宮川大介准教授（一橋大学）が、中小企業の退出がマクロの生産性改善をもたらしていないというパズル（負の退出効果）について、大規模データと因果推論を用いた研究成果を発表しました。生産性の高い中小企業が合併により退出していることがパズルを解く鍵となっていることが明らかにされました。

▼対談では、大橋和彦教授（一橋大学・東京工業大学）と渡部敏明教授（二橋大学）が、データ・サイエンスを活用したファイナンス研究に関する潮流展望と今後の課題について、活発な議論を交わしました。

▼最後に、貝塚正彰理事（日本

銀行）が、分析結果の背景の考察や政策遂行への活用などの重要性を指摘し、ワークショップを締めくくりました。



## 「事業者における顧客情報の利用を巡る法律問題研究会」報告書の公表について

▼近年、情報通信技術の発展などを背景に、幅広い事業者において、顧客情報を利用する動きが進展しています。もともと、顧客情報のうち、法人顧客情報の取引や利用に当たっての法的な枠組みについては、これまで十分に議論されていませんでした。

▼こうした中、日本銀行金融研究所では、二〇二二年二月に、情報法、民商法、競争法の学者や実務家を招いて、「事業者における顧客情報の利用を巡る法律問題研究会」を設置し、オンライン会合により、事業者による顧客情報の利用や第三者への

提供などに関する法律問題について議論してきました。

▼日本銀行金融研究所は、研究会での議論を踏まえ、二〇二一年十二月に、報告書（「法人顧客情報の取引と利用に関する法律問題—商取引における新たな価値創造に向けて—」）を事務局として取りまとめ公表しました。

▼本報告書では、欧米の議論も参照しつつ、法人顧客情報の取り扱いにかかる法的枠組みの検討を通じて、情報の取引に関して規範となりうる基本的な考え方を整理しています。また、具体的な設例を用いた検討を通じて、情報提供者の権利や情報受領者の義務について理論的な分析を行っています。こうした分析は、情報の取引や利用における法的不確実性の除去につながるものと考えられます。

▼本報告書は、日本銀行および金融研究所ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



## 編集後記

■哲学をご専門とされる野矢教授と黒田総裁との対談では、対面による授業や会議がオンライン形式とどう違うかを論じています。参加者が「空間」を共有できる対面の方が、話が脱線し、揺らいでいくことから新しいものを見いだせる、そして親密な空間を創出できるという整理は、コロナ禍で経験した私たちの実感と合致しています。哲学が身近に感じられる対談となりました。

■インタビュー相手のさかなクンが、魚に夢中になっていく過程も、オンラインではなく、飼育やふ化など直接的な魚との触れ合いに満ちています。さかなクンを前にしている間、優しい人柄と魚への愛情が私にはヒシヒシと伝わってきました。さて、彼の魅力は紙面を通じて十二分に伝わりましたでしょうか。

■FOCUS BOJでは、気候変動問題に対する日本銀行の取り組みをご紹介します。気候変動問題とは縁遠いように思われがちな日本銀行が、実は組織を挙げて積極的に対応していることをご理解いただければ幸いです。(渡邊)

## [アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。

日本銀行のホームページからもご回答いただけます。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。  
([https://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<https://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2022年春号  
編集・発行人 渡邊昌一  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
☎ 03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アインネット  
禁無断転載

## 「第一七回 日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 の決勝大会を開催

▼大学生を主な対象とする金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第一七回 日銀グランプリ」キャンパスからの提言」に、今回は全国各地の大学から一二編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームにより二〇二一年十一月二十三日に決勝大会が開催されました。

▼決勝大会では、小柴満信氏(経済同友会 副代表幹事、JSR



最優秀賞の同志社大学経済学部チーム(写真撮影時のみマスクを外しています。撮影:野瀬勝一)

株式会社 名誉会長)、野原佐和子氏(株式会社イプシ・マーケティング研究所 代表取締役社長)の他、日本銀行の若田部昌澄副総裁(審査員長)、安達誠司(中村豊明 両政策委員会審議委員

の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、同志社大学経済学部チームの「SDGs促進ファンダンゴ」が選ばれました。この他、優秀賞に椋山学園大学現代マネジ

メント学部チーム、明治大学商学部チーム、敢闘賞に東京経済大学経済学部・経営学部チーム、麗澤大学経済学部チームが選出されました。

▼日本銀行ホームページでは、

決勝参加チームの作品全文と審査員講評および奨励賞論文の要旨、決勝大会の様子が収録した動画を掲載しています。



## 新卒採用エントリーシートの募集開始

▼日本銀行は、三月一日から新卒採用(総合職、特定職、一般職)のエントリーシートの募集を開始しました。詳細は、日本銀行ホームページをご覧ください。





from London



すっかりお馴染みとなった自転車通勤の風景

## ロンドンにおける交通手段の「エコ化」

昨秋に COP26 を開催した英国では、環境問題への関心がますます高まっており、さまざまな環境対策の取り組みが進められています。当地ロンドンで生活する中で特に実感するのは、交通手段における「エコ化」の進展です。

ロンドンでは、交通渋滞や大気汚染がもともと深刻だったこともあり、自動車の使用やそれに伴う排出ガスを抑制する取り組みが進められてきました。最近では、市内中心部での自動車使用に対する「渋滞税」が引き上げられ (£11.5 → £15)、排ガス性能の低い車両に「通行料」(乗用車の場合で £12.5) が課されるエリアも大幅に拡大されました。

こうした中で、自動車以外の交通手段の活用が進んでいます。例えば、以前から普及していた自転車通勤は、コロナ禍のもとの自動車の交通量減少も追い風となり、一段と増加しています。

最近活用され始めたのが、e-scooter (電動キックボード) です。e-scooter は、既に一部の国で普及が

進んでいるようですが、当地では 2021 年 6 月に、ロンドン交通局がレンタルのトライアルを開始しました。同年 12 月現在、ロンドン全体の約 3 分の 1 の区がこれに参加しています。

このトライアルが始まってから、当地では、車道を走る e-scooter の姿をよく見かけるようになりました。自転車と比べると、ペダルを漕ぐ必要がないため、例えば出勤時に汗をかかずに素早く移動できる (最高速度は時速 20km)、といったメリットがあるようです。

もっとも、トライアル開始後の半年間で死傷者の発生事故が 9 件報告されており (2021 年 12 月現在)、安全面からの懸念を指摘する声が上がっているのも事実です。e-scooter がこうした課題をクリアし、ロンドンっ子の新しいグリーンな「足」として定着できるか。今後の展開が注目されます。

(日本銀行ロンドン事務所)

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



上 / e-scooter のレンタル・ステーション  
右 / イングランド銀行近くの道を走る e-scooter





にちぎん